

## 公表

### 第 28 回技能グランプリ「建具」職種競技課題

次の競技時間、注意事項及び仕様、支給材料に従って課題図に示す衝立を製作しなさい。

1、競技時間 12 時間

打切時間 12 時間 30 分

2、注意事項

- ① 図示されていないものは、慣例に従い製作する。
- ② 割込み、すみ付けはすべて競技場で行う。
- ③ 原寸図の型板は使用禁止とする。
- ④ 図面上の○印同志、□印同志は同寸法とする。
- ⑤ 安全には十分に配慮する事。競技時は作業服、帽子等を着用するものとし、木工機械（テーブル傾斜丸鋸盤）や電動手持ち工具の使用にあたっては、保護メガネを使用し、競技委員の指示に従い、安全に作業を行う事。
- ⑥ 木工機械（テーブル傾斜丸鋸盤）の使用に関してはホゾ引きのみとし、溝加工は電動小穴カッター（溝切りカッター）または電動トリマを使い製作する。工具用の刃物、治具などは持参すること。
- ⑦ 組立てには、ハタ金を使わずに組み立てる事とする。
- ⑧ 手工具は指定の物以外持参しても良いが、使用にあたっては競技委員が判断する。

3、仕様

- ① 機械作業のホゾ穴は、框周り・兜巾棧・土居とし、ホゾは框・上棧・中棧・下棧・兜巾棧・足と土居の相欠き及び足の下場しゃくりまでとする。額の収まる 20mm・杉板の収まる小穴・自由課題・額周りの小穴も機械作業で行う。
- ② 組子、付子のホゾ穴、ホゾ、額の製作加工は、手加工とする。  
なお、組子（8mm×18mm）・付子（6mm×18mm）は仕上げてある。
- ③ 上棧 上棧と框の取合いは箱留め接ぎとする。  
なお、箱留め接ぎの加工にあたっては電動ドリルの使用も許可する。
- ④ 框 框と横棧の取合いは、図示に従い、製作する。
- ⑤ 上横棧 框とタテ束の取合いは、腰型流れ胴付とする。
- ⑥ 下横棧 框とタテ束の取合いは、腰型とする。
- ⑦ 下棧 框と下棧の取合いは、腰型流れ胴付きとする。
- ⑧ 右タテ束 上棧との取合いは、腰型流れ胴付きとし、下横棧との取合いは、腰型とする。
- ⑨ 左タテ束 上横棧と上棧との取合いは、腰型とする。
- ⑩ 土居 土居と框の取合いは、下ホゾの穴を抜き、足との相欠き部分を取る。

- ① 足 足と框の下ホゾの穴を抜き、土居との相欠き部分を取りクサビ締めとする。
- ② 束・棧 束と棧の取合いは、兜巾面を取り、横通しタテホゾとする。
- ③ 額・腰板 腰板に額を取り付けて納め、留は三枚に組み釘止めにする。(面の形状は自由とする。)    
 なお腰板のしゃくり出し等は自由とする。
- ④ 組子 図示された寸法に製作する。
- ⑤ 面 両面とし、図示されたものはすべてそれに従い製作する。    
 平几帳面は手加工とする。
- ⑥ 留型 箱留型は使用しないものとする。
- ⑦ 自由課題 自由課題に限り型板・治具は持参し使用して良い。    
 製作には、電動工具は使用しないこととする。    
 自由課題部分の材料は各自持参し、加工は全て競技時間内で行う事。    
 収まりは建込みとし、付子見込みは12mmとする。
- ⑧ その他 接着剤・釘は、各自で持参する。    
 障子紙貼りは競技終了後に行う。

#### 4、 支給材料

部材名	長さ	見付	見込	数	材質	備考
上枠	1150	60.5	36.5	1	米ヒバ	
建枠	910	60.5	36.5	2	〃	
下枠	1280	40.5	60.5	1	〃	
土居	700	100.5	90.5	1	〃	
縦中棧	580	40.5	36.5	2	〃	
横中棧	790	40.5	36.5	2	〃	
下中棧	1150	32.5	36.5	1	〃	
兜巾棧	790	30.5	36.5	2	〃	縦・横含む
腰額	910	23.5	20.5	2	〃	縦・横含む
障子組子	780	8	18	4	〃	縦・横含む
障子付子	780	6	18	3	〃	縦・横含む
腰板	700	160	9	1	杉	
ほぞ穴ゲージ	300	36.5	36.5	1	米ヒバ	
クサビ			20.5			切り落とし使用

## 5、採点項目及び配点

採点項目		配点
作品採点	寸法精度	25点
	加工中採点	15点
	規定課題	20点
	自由課題	25点
作業時間	採点	10点
作業態度	採点	5点